

414  
A2271

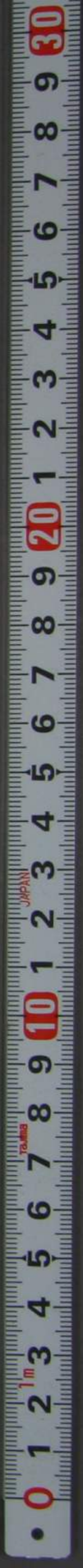


千八百八十一年六月二十一日横濱刊行  
ジヤツパン、デイリ、ヘラルド新聞抄記

峯源次郎記

大正十一年四月  
大隈侯爵邸

余輩ハ造幣局長ナル石丸氏カ昨年間ノ年報(昨年六月三十日結尾)ノ一本ヲ送呈セラレタルニ就テハ鳴謝ヲ為シ又々其文書ニ就キ考定ヲ下サ、ルヘカラサルナリ其年報、文書タルヤ首尾能ク連続成就ヲ遂ケラレタルモノ、如シ然リ而シテ其職務上ノ責任ニ於テ正実才能兩ナカラ全キヲ得テ外國ト云ヒ勿論大ニ日本造幣局ニ其信用ヲ増加スルアリテ敢テ之レヲ非難スルモノナキヲ見ルナリ  
日本造幣局ハ大ニ信用ヲ外國ニ得タレハ若シ日本ニ在



テ造幣ノ事業開暇ナルニ於テハ事業隆盛ノ期望ヲ支那  
ニ屬スルヲ得ベシ是レ既ニ支那ヨリ貨幣鑄造ノ為ニ巨  
額ノ紋銀ヲ大坂造幣局ニ送リタレハ右造幣局ノ事業ハ  
更ニ開暇ニハアラサルヘキヲ知ルナリ

余輩今ハ香港ノ通信ニ依レハ香港知事「ヘンチツシ」氏  
ハ曾ニ日本ノ「田」銀ヲ以テ香港殖民地ノ合法貨幣トセン  
トシテ失望セラレシカ此節日本有司ハ一個ノ公文ヲ送  
致セラレタルヲ知ルナリ蓋シ其公文ノ大意ハ香港通用  
ノ為ニ日本造幣局ニ於テ貨幣ヲ鑄造セント欲スレハ其  
儀日本ニ於テ如何ナルヤ承諾アルヘキヤ否ラサルヤ云  
云ノ事ヲ記載セシモノ、如シト云フ

又々香港知事閣下カ近頃喋々開陳セラレタル說話ヨリ  
右ハ余輩ト雖モ全ク同説ナレハ今其說話ヲ記載スル

左ノ如シ

「ヘンチツシ」氏曰ク彼ノ「サ」リ「チャード」マ「ク」アン  
子ル氏カ此殖民地ニ於テ施行セラレタル「ハ」  
事々物々大ニ信用ヲ置クニ足ルモノ多シ然リ  
而シテ如何ヤン唯タ其「サ」リ「ヘルクルス」ロ「ベン」  
「ソ」氏ノ目論見ノ交換ノ造幣局設置ヲ廢棄ヤ  
シ「ト」ニ至リテハ拙者大ニ「サ」リ「チャード」マ「ク」ド  
ン子ル氏ヲ信スル能ハサルナリ  
拙者カ意ヲ以テ見レハ「サ」リ「ヘルクルス」ロ「ベン」  
「ソ」氏ノ目論見ヲ可トシテ採用セサルヘカラ  
サルナリ  
夫レ「サ」リ「ヘルクルス」ロ「ベン」氏ハ巨額ノ費  
金ヲ棄捐シテ香港造幣局ヲ設立セラレタルナ

リ  
拙者香港ナル當殖民地ニ赴任セシ以來未タ一  
ケ月ヲモ過サルニ該地銀行支配人并ニ豪商輩  
面會ヲ乞フテ「サ、ハルクルス、ロビンソン氏ノ  
造幣局設立目論見ヲ再始スヘキ方法ヲ建議セ  
シハ能ク世人ノ知ル所ナリ

拙者一千八百七十七年(明治十年)六月ニ於テ公  
文ヲ認テ本國ナル「ロルド、カルボン氏」ニ送呈セ  
リ而シテ前段銀行支配人并ニ豪商等カ拙者カ  
官廳へ來會ヤシ趣ヲ陳述シ而シテ右商人等ソ  
所見ヲ聽テ其殖民地地方ニ於ケル通用貨幣ノ狀  
情即チ貨幣ノ不都合ナル景況ノ「」ニ就テハ拙  
者モ彼等ト同意同見ヲ表セシ旨ヲ陳述シ從テ

造幣局再設ノ許可アラントテ政府ニ上申シタ  
リ

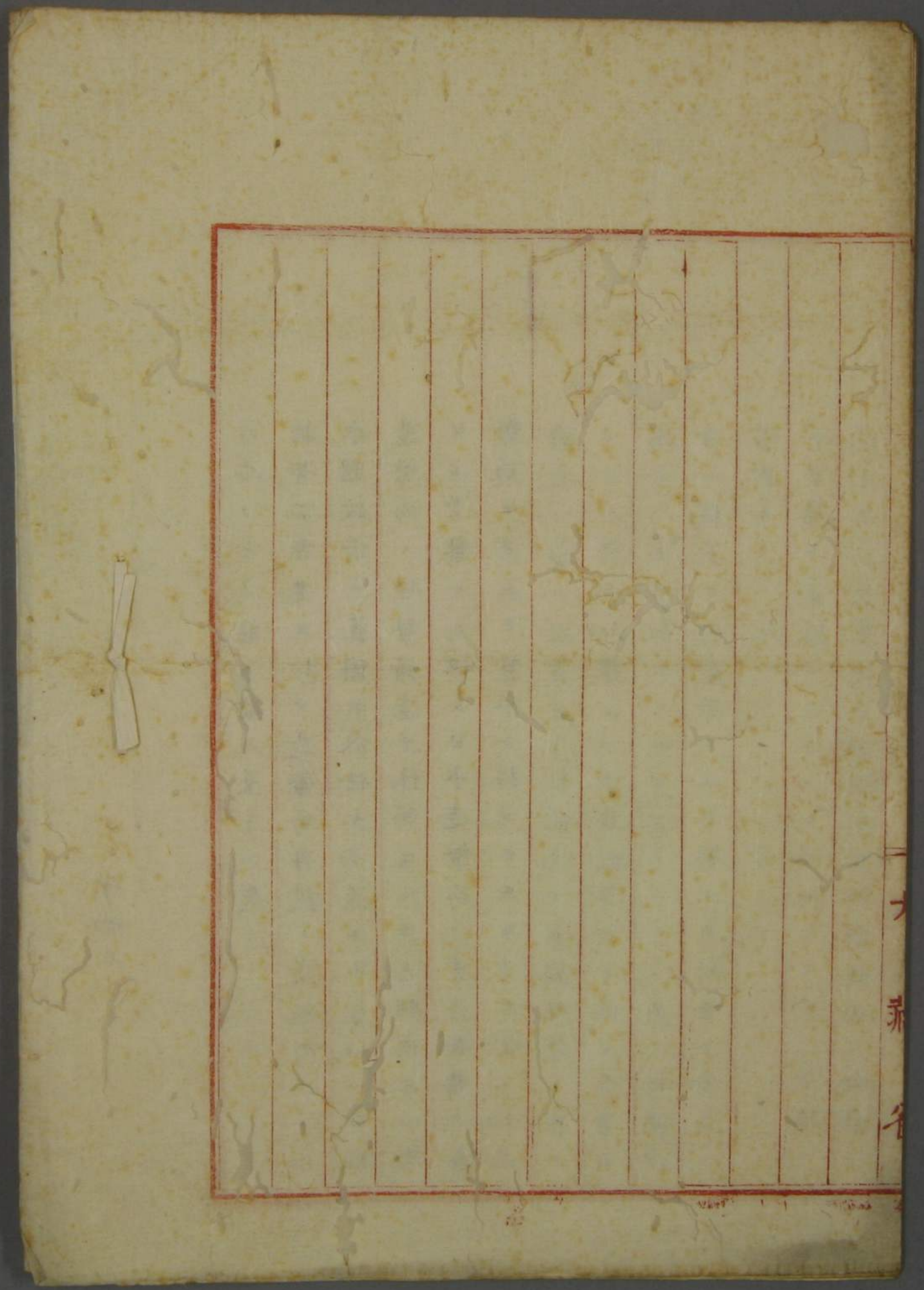
右本國ニ送呈シタル拙者カ上申ノ議案ヲ以テ  
本國造幣局長并ニ大藏省ニ付シテ討議ヲ為サ  
シメタル由ナリ然ルニ久シク討議ヲ要セシ後  
終ニ本國政府ヨリ右ハ許可セサル旨申來レリ  
此時ニ當テ右香港造幣局再設ノ議ハ許可ニナ  
ラサレド本國政府ニ於テハ何トカ香港殖民地  
通用貨幣ニ改良ヲ施スノ必要ナル旨明言アリ  
シカ今ヤ曾テ一千八百七十九年(明治十二年)  
於テ當所商法會議所ヨリ出シタル一個ノ建議  
案ニ就テ評議中ナリ  
蓋シ其商法會議所ヨリノ建議案ハ現今日本ニ

設立セル造幣局ニ香港通用貨幣鑄造ヲ依頼ス  
ルモ敢テ不利ナラサルヤ如何ント云フ問題ヲ  
含有セリ

右ハ猶未タ評議中ナレド然レド拙者カ意見ニ  
依レハ「サト、ヘルクルス、ロビンソン」氏ノ目論見  
タルヤ實ニ服膺スヘキ目論見ナリ而シテ曾テ  
数年以前ニ設置セシ目論見カ其繼續者ノ為ニ  
成功ノ美果ヲ表スルニ至ラザリシハ恰モ好花  
ノ未タ蕾ヲ破ラサルニ直チニ人ノ為ニ摘去セ  
ラレタルモノト一般ナリ豈ニ遺憾ナラスヤ然  
リ而シテ今日拙者又其後任ヲ負テ此地ニ到著  
シテ之レカ再設ヲ懇願セシモノハ是レ蓋シ「ロ  
ビンソン」氏ノ目論見ヲ篤信スルニ非サルヨリ

ハ安クソ能ク茲ニ至ラン哉

拙者右香港ニ於テ造幣局再設ノ議如何ハ一ニ  
本國政府ノ差圖ニ放任ヤリ然レド多分ハ日本  
造幣局ニ貨幣鑄造ヲ依頼スルニ相成ルヘキ  
ヤニ考察ヤリ但シ日本造幣局ハ曾テ香港ノ造  
幣局ナリシヲ日本ニ移シタルモノナリ



六  
新  
行